

特集 公共施設再配置 施設の「終わり」を 「スタート」地点に

市では、公共施設の「再配置」に積極的に取り組んでいます。公共施設が抱える問題を考えるとともに、地域や民間の協力で新たに生まれ変わった公共施設を紹介します。

▶問い合わせ 公共施設再配置推進室(管財課内) ☎73-3003

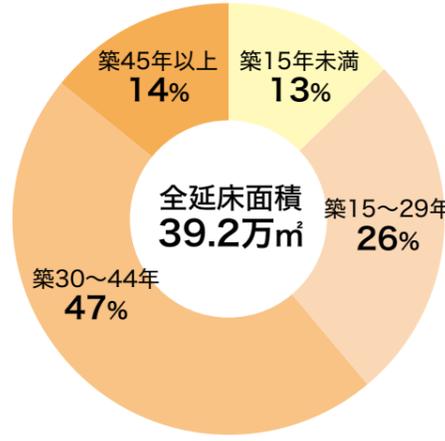
平成18年に、7つの町が合併して誕生した三豊市は、合併により、それぞれの町が保有していた用途の同じ施設が、市内に多数存在しています。

さまざまな施設が身近にあることは便利である一方、維持するためのコストや老朽化した際の解体・建て替え費用など、大きな税負担を担っていることになりました。

市の公共施設は、昭和40～50年代の高度成長期にかけて一斉に整備されており、近い将来、これらの施設は老朽化が進み、建て替えの時期を迎えます。そうすると、税負担が大きくなり、市の財政が圧迫され、本来行わなくてはならない教育や子育て支援、福祉などに十分な予算が配分できなくなる恐れもあります。

令和4年2月には、市議会において「公共施設再配置特別委員会」が設置され、市と市議会とが一体となって公共施設の再配置に取り組んでいます。

今後も自立したまちを持続的に経営していくために、将来の公共施設のあるべき姿について、共に考えてみませんか。



参考: 令和4年度固定資産台帳

築年数別における延床面積の割合

公共施設はどれくらいあるの？

現在、市には400を超える公共施設があります(道路・公園などのインフラを除く)。

建物の延べ床面積は約39万㎡で、市民1人当たりに換算すると、6.3㎡の公共施設を保有していることとなります。これは、全国平均の3.4㎡を大きく上回っています。

今のままだと何が困るの？

市の公共施設の6割以上が、築30年を超えています。

現在の公共施設数を維持したまま、主要な建物を耐用年数に応じて建て替えを行うと仮定すると、今後40年間で約1,826億円の費用が必要となります。

公共施設の維持費の増額が見込まれる一方で、人口減少や高齢化により、税収の減少や社会保障費の増大などが予想され、これまでと同じように公共施設を維持していくことは厳しい状況になってきています。

そこで求められるのが、公共施設の再配置です。

公共施設の「再配置」って？

公共施設の在り方を見直し、その適正な配置および効率的な管理運営を行うことを再配置といいます。

例えば、複数の公共施設の機能を統合する「複合化」や、官民連携を取り入れた「建て替え」、行政目的が終了した「施設の売却」などが挙げられます。

必要な機能はできるだけ維持しながらも、公共施設の総量を減らし、持続可能な行政サービスを実現することを目標としています。

市内で土地などをお探しの人はいませんか？

市ホームページで、売却が可能な市有地などの情報を公開しています。掲載しているものについて購入を希望する場合は、公共施設再配置推進室までお問い合わせください。

情報は随時更新していますので、ぜひご利用ください。

※売却を行う際は、契約条件や予定価格などを定め、原則として一般競争入札による売却を行います。

※購入希望があった土地は、必要に応じて測量や境界確定・不動産鑑定を行い、売却できるように準備を進めていきます。これらには、数カ月程度の期間を要することがあります。

▶売却可能な市有地情報はここから



公共施設とは

インフラ	ハコモノ
道路、水路、公園など	市役所、学校、公民館、図書館など

公共施設って？

「公共施設」とは、市が保有している施設などのことをいいます。市役所・学校・公民館・図書館など、いわゆる「ハコモノ」と呼ばれる建物系公共施設のほか、道路・水路・公園などの「インフラ」も公共施設に含まれます。





再配置のいま

再配置によって、市内の施設がどのように生まれ変わったのか、関わる人たちの思いと共にお伝えします。

旧大浜小学校のいま

小学校跡地のお菓子工場



人気のマドレーヌを製作中！

株式会社本気モード 『大浜スイーツアカデミー・MOZAIK ストアー大浜』

旧大浜小学校は、市の一般競争入札により、「株式会社本気モード（以下、本気モード）」が落札し、昨年4月に所有権が移転しました。

また、近隣に買い物をする場所が少ないため、その一助になればと、「MOZAIKストア大浜」には、工場で製造されたお菓子のほか、お弁当やパン、調味料、駄菓子などが並びます。

今後の挑戦

「この広大な敷地を活かしてイベントを企画したり、自分たちでスイーツの原材料を育てることに挑戦したいです」

また、本気モードでは、AI（人工知能）技術を取り入れたスイーツレシピの考案や製造過程の自動化なども進めています。

昨年春、校舎の前に設置された石碑には、「大浜から世界へ」の文字が刻まれています。地域の歴史と思いが詰まったこの場所で、地域と共に「本気」で挑む挑戦を、シンボルツリーの大楠が校庭から静かに見守っています。



▲本気モードが設置した石碑



▲旧大浜小学校のシンボル 大楠



▲体育館の入り口フロアを改装した直売店

旧大浜幼稚園のいま

地域交流館荘内



公民館講座も実施中！



▲新設された地域交流館荘内

大浜幼稚園の廃園から現在まで

平成31年3月	閉園
令和4年3月	解体工事完了
令和6年1月	地域交流館荘内 完成
4月	利用開始



▲旧大浜小学校(現:大浜スイーツアカデミー)

大浜小学校の廃校から現在まで

平成31年3月	閉校
令和5年1月	一般競争入札にて落札
4月	所有権移転(本契約)
7月	大浜スイーツアカデミー オープン
令和6年3月	MOZAIK ストアー大浜 オープン

学び舎を「スイーツ製造工場」に

本気モードは、詫間町松崎に本社を置き、通販事業やコンサルティング事業などを手掛ける地元企業です。旧大浜小学校の校舎を改修後、昨年7月、「大浜スイーツアカデミー」をオープンし、地元の果物などを使用したチョコレートや焼き菓子などの製造を行っており、主にインターネットで販売されています。また、今年3月には、体育館の入り口フロアを改装し、直売店として「MOZAIKストア大浜」をオープンしました。

小学校跡地利用に込めた思い

「旧大浜小学校の購入を決めたのは、地域の雇用を創出したいという思いと、廃校の維持管理には税金もかかるので、購入すれば地域貢献もできると考えたからです」そう話すのは、本気モード代表取締役の樋口憲一さん。

地域の人の関わり

「この場所は自然豊かで、地域の人も温かく協力的です。アカデミー(学校)と名付けたのは、地域と共に常に学び続け進化し続ける場所にしたという思いからです」



▲元家庭科室を改装した現オフィス

▲株式会社本気モード 代表取締役 樋口憲一さん

安心して利用できる施設に

地域の新しい活動拠点について、大浜自治会長の森伸男さんに話を伺いました。「年に数回、敬老会などで大勢が集まる際は少し手狭に感じることもありますが、3つの会議室をつなげて対応しています。何より耐震補強されているので避難所としても安心して利用できます」

▲大浜自治会長 森伸男さん

これから

公共施設の再配置は、これからの三豊市を担っていく若者世代に負担を先送りしないための取り組みです。売却地情報に興味のある人は、公共施設再配置推進室へお問い合わせください。



▲売却地情報は こちらから